

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：17201
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2016～2023
 課題番号：16K12361
 研究課題名（和文）新人保健師の自己成長感獲得を目指した実用重視型プリセプターシッププログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a "practicality-oriented preceptorship program" for new public health nurses to acquire a sense of personal growth

研究代表者
 山田 小織（Yamada, Saori）
 佐賀大学・医学部・教授

研究者番号：60369080
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：近年、日本では新任期保健師を育成する為のプリセプター制の整備が課題となっている。そこで、本研究では、新人保健師とその指導者のプリセプターが活用できる教育ツール「スタートブック」を開発した。スタートブックは、全68頁でスタートガイドとポートフォリオの2部編成とした。スタートガイドは、「社会人に求められる能力」「保健師としての成長」「効果的な仕事の進め方」の3項目で構成した。ポートフォリオは、「月別記録シート」「自己研鑽シート」「ネットワークシート」「カンファレンスシート」の4項目で構成した。開発したスタートブックは、保健師の配属人数の少ない自治体においても有効活用されることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の保健師は、保健医療福祉に関する知識を有し、保健指導等の専門技術だけでなく、地域ケアシステムの構築や社会資源の開発等、幅広い能力の発揮が期待されている。これらの期待に応える為、新人保健師には専属の指導者（プリセプター）を配置するなどの教育体制（プリセプター制）が整備されつつある。しかしながら、これらのプリセプター制を推進するうえでの教育プログラムやツールの開発は遅れている。そこで本研究では、保健師現任教育のプリセプター制において実用可能な「公衆衛生を担う保健師のためのスタートブック～1年間のポートフォリオ～」を作成・公表した。これらは新人保健師の自己成長感獲得において有効性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：In Japan, a preceptor system is being developed to train newly appointed public health nurses. In this study, we developed Start Book, a human resource development tool that newly appointed public health nurses and preceptors can utilize. Start Book was 68 pages in total and consisted of two parts: Start Guide and Portfolio. Start Guide consisted of three sections: "skills required of working adults," "growth as a public health nurse," and "how to work effectively." Portfolio consisted of four sections: "monthly record sheet," "self-improvement sheet," "network sheet," and "conference sheet." It was suggested that Start Book developed in this study can be effectively used in municipalities with a small number of public health nurses.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師 現任教育 プリセプター

1. 研究開始当初の背景

地方分権の時代において、地方公共団体が住民の期待に応える行政運営を行うためには、職員の資質向上がきわめて重要といわれている。

近年、地域保健分野においても、現任教育強化の基本的考え方が示されるようになった。しかしながら、保健師の分散配置が進み、業務の多忙さとあいまって、職場での人材育成の体制は不十分な状態にあり、これらの組織的な整備は進んでいない(佐伯 2009)。

職業人としての成長をキャリア発達の観点からとらえると、初期、特に1年目の教育は非常に重要である。看護系大学での保健師に関する基礎教育は大きな転換期にあり、これに並行して新人保健師育成に関しては、従来の枠組みとは異なる方法論の開発と評価が求められている(山田 2013)。

保健師現任教育に関する先行研究では、OJT(On The Job Training)評価(和泉 2005、佐伯 2007、越田 2015)が示され、新人保健師の力量形成(山口ら 2006)、プリセプターのアイデンティティやコンピテンシーの獲得(厚生労働省 2007)、プリセプターの認識変化(嶋津ら 2014)等が明らかになっている。研究代表者も新人保健師に対するプリセプターの支援(山田 2015)を明らかにしてきた。しかしながら、先行研究の知見に基づいた新人保健師に対する教育プログラム・ツールは整備できていない。

新人保健師は、専門知識や能力に加えて行政能力など、幅広い能力を身につけることが求められている一方で、自己評価が低く(池西 2004)、自信のなさを抱えている(山田 2009)。その背景には、相談相手の欠如による問題対処の困難さ(小元ら 2008)が関与している。その為、保健師現任教育においては、プリセプター制の導入が積極的に進められるようになった。先行研究では、プリセプターの支援によって、新人保健師の職場環境や実践に対する不満、職務遂行に伴う重圧が解決されること(山田 2014)が明らかになっており、新人保健師が指導者と日常の実践場面を焦点化し、互いによく話し合うことは、双方の自己成長感に有効(村松 2008)であることも示されている。

以上より、新人保健師の自己成長感獲得に向けて、プリセプターシッププログラムのあり方を検討し、実用的な教育ツールを開発することは、わが国の保健師現任教育において喫緊の課題と考えた。

2. 研究の目的

上記の背景より、「新人保健師の自己成長感獲得を目指した実用重視型プリセプターシッププログラムの開発」を目指し、新人保健師を取り巻く現任教育の現状と課題を明らかにすること、新人保健師の育成に向けたプリセプター制に関する教材を開発・評価することの2点を本研究の目的とした。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するための研究方法は以下のとおりである。

1) 新人保健師に関する現任教育の現状と課題

(1) 地域保健専門職の現任教育体制確立に向けた課題(研究)

期間: 2016年12月~2017年1月

対象: A市の地域保健専門職と同部署の事務系管理職(5名)

方法: 半構造的面接調査

(2) 市町村保健師における現任教育の実態と課題(研究)

期間: 2018年12月~2019年1月

対象: A県内の保健師(市町村60カ所: 591名)

方法: 自記式質問紙調査(郵送法)

2) 新人保健師の育成に向けたプリセプター制に関する教材開発・評価

(1) 入職1年目の地域保健専門職を対象としたスタートブックの検討(研究)

期間: 2016年12月~2018年3月

方法: 研究 をもとに、人材育成専門家にスーパーバイズを受け、公衆衛生看護学の研究者4名で入職1年目の地域保健専門職を対象としたスタートブック試作版を作成し、地域保健専門職10名にモニタリングを実施した。

(2) 公衆衛生を担う新人保健師を対象としたスタートブックの開発(研究)

期間: 2018年4月~2023年3月

方法: 研究 をもとに、人材育成専門家にスーパーバイズを受け、公衆衛生看護学の研究者5名とA県保健師2名により、公衆衛生を担う新人保健師を対象としたスタートブック(研究 の改訂版)を作成し、保健師200名にモニタリングを実施した。

4. 研究成果

1) 新人保健師に関する現任教育の現状と課題(研究)

(1) 地域保健専門職の現任教育体制確立に向けた課題

事務系管理職による地域保健専門職の業務評価は、業務マネジメント 能力開発 コミュニケーション の3カテゴリーに分類できた。業務マネジメント については、地域保健専門職の〔業務遂行への計画性〕〔業務遂行の処理能力〕〔業務遂行のコーディネート能力〕を評価し、〔新たな事業企画〕〔事業企画の積極的提案〕を期待していた。能力開発 については、〔専門的業務への自己啓発〕〔事務的業務への自己啓発〕を評価し、これらの個人差が大きいと認識していた。コミュニケーション については、〔住民や関係機関への接遇〕〔専門的な観察スキル〕〔専門的な情報収集スキル〕を評価していた。

事務系管理職は、地域保健専門職の「業務配分の見極め」や「現任教育の見極め」に困難感を抱いており、現任教育体制を確立するうえで、職種の専門性に関する情報発信や専門的業務の評価システム構築、研修会やプリセプター制による地域保健専門職による相互学習が重要と認識していることが明らかになった。

(2) 市町村保健師における現任教育の実態と課題

A 県内の市町村に勤務する保健師 230 名(回答率 38.9%)から回答を得た。職場外研修会への参加経験が「あり」と回答した者は、「新任期対象研修」が 178 名(77.4%)、「中堅期対象研修」が 92 名(40.0%)、「管理期対象研修」が 41 名(17.8%)であった。職場内で実際にプリセプター制を受けた者は 27 名(11.7%)であり、プリセプター制の導入が進んでいないことが示唆された。『現任教育の必要性:現任教育は必要だと思いますか』に対して、「とても必要と思う」は 138 名(60.0%)、「まあ必要と思う」は 79 名(34.3%)、「あまり必要と思わない」は 13 名(5.7%)であった。職務満足度(20 項目:5 段階リッカート法)については、平均値 69.81(SD11.5)、中央値 71.0 であった。現任教育の課題については、教育体制 教育内容 組織管理 の3カテゴリーと 24 サブカテゴリー に分類できた。現任教育の課題については、組織管理 上の課題が大きく、このことが教育体制 に影響し、十分に教育内容 を検討することができていない現状にあることが示唆された。実際に、市町村では保健師の<管理職が配置>されておらず、人事計画や人事評価に関しても発言や決定の機会が少ないこと、また<統括保健師の配置>も明確でないことから、保健師がリーダーシップを発揮して教育体制 を整備しづらいことが予測された。

2) 新人保健師の育成に向けたプリセプター制に関する教材開発・評価(研究)

スタートブックは、全 68 頁でスタートガイドとポートフォリオの 2 部編成とした。

(1) スタートガイド

スタートガイドは、「社会人に求められる能力」「保健師としての成長」「効果的な仕事の進め方」の 3 項目で構成した。「社会人に求められる能力」については、社会人基礎力とは何か、プロフェッショナルとは何か、組織で働くうえで覚えておく事柄、キャリアデザインの重要性の 4 点で構成した。「保健師としての成長」については、行政の保健師としての役割、入職して 1 年目の保健師としての心得、先輩の保健師からどのように学ぶか、保健指導を実施するうえでのポイントの 4 点で構成した。「効果的な仕事の進め方」については、仕事のマネジメントサイクル(PDCA サイクル)、仕事の工夫と改善(優先順位の視点、課題への対応)、報告・連絡・相談のポイント、社会人としての基本(礼儀やマナー、身だしなみ)、地域におけるネットワーク構築の 5 点で構成した。

(2) ポートフォリオ

ポートフォリオは、「月別記録シート」「自己研鑽シート」「ネットワークシート」「カンファレンスシート」の 4 項目で構成した。「月別記録シート」については、週単位で、主な仕事内容と感想を記入する欄、月単位で、仕事を振り返り成長した点と課題を記入する欄、月単位で、先輩や上司がコメントを記入する欄で構成した。「自己研鑽シート」については、自己研鑽の内容を記載するものとし、日付と参加した研修や学会、その感想を記入する欄を設けた。「ネットワークシート」については、保健活動において連携・協働する地域の社会資源を記入(図式化)する欄を設けた。「カンファレンスシート」については、新人保健師が受け持つケースについて事例検討会を開催し、学んだことや今後の課題を記入する欄を設けた。

その他、新人保健師が適宜、自己の専門能力を評価し、目標を設定できるように、巻末には、厚生労働省による保健師の標準的なキャリアラダーを掲載した。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山田小織, 古賀佳代子	4. 巻 第19巻3号
2. 論文標題 市町村における現任教育の実態と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インターナショナル Nursing Care Research	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田小織, 古賀佳代子	4. 巻 第21巻2号
2. 論文標題 市町村保健師における現任教育の実態と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 インターナショナル Nursing Care Research	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山田小織, 古賀佳代子
2. 発表標題 市町村保健師における現任教育の実態と課題
3. 学会等名 第8回公衆衛生看護学会（愛媛）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田小織, 越田美穂子, 賀村悦子
2. 発表標題 入職1年目の地域保健専門職を対象としたスタートブックの検討
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田小織、松尾和枝、越田美穂子、守田孝恵
2. 発表標題 地域保健専門職の現任教育体制確立に向けた課題 ~事務系管理職の業務評価から~
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Saori Yamada, Kazue Matsuo, Takae Morita, Mihoko Koshida
2. 発表標題 Development of Start Book, a Human Resource Development Tool, for Newly Appointed Public Health Nurses and Preceptors
3. 学会等名 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	越田 美穂子 (Koshida Mihoko) (30346639)	富山県立大学・看護学部・教授 (23201)	
研究分担者	守田 孝恵 (Morita Takae) (00321860)	獨協医科大学・看護学部・特任教授 (32203)	
研究分担者	松尾 和枝 (Kazue Matsuo) (90190404)	福岡女学院看護大学・看護学部・教授 (37126)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------